

地域連携の大切さについて

長野県立信州医療センター 副院長兼地域医療福祉連携室長 上沢 修



地域連携室長の上沢です。長野県立信州医療センターだより(かがやき10号)の発行に合わせて地域連携室の業務、および一言あいさつを述べさせていただきます。

先日、5月20日 福島県南相馬市の文教福祉常任委員会の視察研修が当院で行われました。当院の地域連携室及び在宅診療部の活動を知り、南相馬市の今後の医療の再開に向けて役立てたいとのことでありました。その際資料の作成を担当部署(地域連携室と在宅診療部)に依頼した次第です。地域医療福祉連携室(これが正式名称である)の業務は「適正で効率的な医療の提供に努め、地域の医療機関との機能分担と連携を推進する」ことを目標に前方連携、後方連携から始まり、紹介・逆紹介患者の予約、返書業務、紹介・逆紹介に関する統計処理(須高地域では開業医の数が少なく、紹介逆紹介率を考慮して医療を実施してい

ない。紹介状を持たない患者さんでも、救急患者はいつでも見ますという方針を徹底)、退院支援・退院調整、医療・福祉相談、登録医制度・開放型病床利用の窓口業務、須高休日診療室窓口(須高医師会との連絡調整窓口)、地域からの問い合わせ窓口、出前講座窓口、ベッドコントロール業務(診療部から看護部に移管している)、入退院支援室の運用(平成30年10月1日運用開始)、患者相談窓口の運用、その他広報活動一般となっており、業務が非常に多いことがわかりました。構成は連携室長を副院長が兼務、副連携室長を事務部長が兼務、室長補佐として専従看護師長1名、看護師1名、MSW4名、事務職4名(1名+パート3)、入退院支援看護師2名となっています。平成30年度紹介患者は3,983人(紹介率28.7%)、逆紹介患者は3,136人(逆紹介率22.5%)でありました。医療相談は1,956件、福祉相談は283件でした。出前講座は55件、TV出演4件、ラジオ出演5件でした。入退院支援室は平成30年10月1日より開始となりましたが、これは外来担当看護師の説明業務の時間短縮等を図り、入院予定患者への説明を合理化し、看護師と医事担当者が同席し、内科系入院予定患者から始まりましたが、その運用を適時修正しながら外科系患者にも適応を拡大しています。

啓発活動として、昨年より市民公開講座を開催しています。昨年度は大腸癌関連で当院の内科系、外科系医師にそれぞれ講演していただき好評を博しましたが、今年は肺・呼吸器関係で当院の内科系、外科系医師による講演を5月25日に開催しました。昨年より多い約200名の方の出席を得ることができました。これとは別に須高地区手をつなごう会を毎年開催しており、昨年は在宅医療関連で医師の立場、訪問看護師の立場で講演していただき、また特別講演として当院の医師による講演もありました。私は非常に良い会であったと思っています。

当院は患者相談窓口カンファレンスを定時開催しています。昨年度は入院費用の問題が目につきましたが、今年はどうなることかと心配です。新棟ができプライバシーに配慮した環境で相談に当たれることが誇りです。

外部医療機関との連携についてであります。これは管理者の問題でもあります。当院では院長が毎年5~6月にかけて近隣のクリニックを訪問し、病診連携に努めています。また、施設訪問は連携室長でもある副院長が9月以降に事務担当者とともに施設を訪問し当院の問題点につき率直な意見を聞き、問題点の改善に努めています。すこずつではありますが1年ごとに病院の体制が良くなっているものと実感しています。

地域連携とは言葉では簡単なことではありますが、難しく奥深いものがあります。今後超高齢社会を迎え、病院で死ねない事例が増加する時代では、どのように最期を迎えるかが重要となります。「Living Will」、「生前指示書の記載」ACPと様々な言葉が出回っていますが、当院では在宅診療部の機能の増強を図り、電子媒体の利用促進を考えて、病気をもちながら在宅で過ごす人々の状態の「可視化」を推進していきたいと思っています。これは地域で活躍する多くの医療者をふくめて多職種連携は欠かせないものである事を示しています。開業されている医師との連携、病院の医師との連携はもちろんですが、その他の医療者ならびに障害者支援チームとの連携も重要であり、その連携の在り方を今後とも模索してゆきたいと考えています。

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

薬剤部の紹介



薬剤部長 吾妻 貴司

今年度、当院の組織構成が改正され、医療技術部薬剤科が薬剤部として独立しました。これは薬剤師の専門性の向上、病院運営体制の強化、独自の採用活動による薬剤師の人材確保等を目的とし、長野県立病院機構全体で実施されたものです。現在、当院薬剤部は薬剤師14名と事務補助員2名体制で業務を行っています。平成30年度の院外処方箋発行枚数は57,884枚で外来処方方の93.5%になります。調剤を行う薬局と連携し、患者さんが服用する医薬品の副作用や相互作用、重複投薬を防止するとともに服用し易い剤形の提案等に積極的に取り組んでいます。

入院患者さんについても、かかりつけ薬局、入所されている施設との連携を強化し、持参された薬剤情報や服用状況をより正確に把握するとともに、薬剤師が患者さんのベッドサイドに赴き、薬の効果、服用方法、注意事項等を説明し、副作用の防止と早期発見にも努め、安全で有効な薬物治療につなげています。

注射剤については、食事から栄養を摂れない患者さんのための高カロリー輸液や抗がん剤などのリスクの高い注射剤の混注を薬剤師が行っており、薬剤部の無菌室内にクリーンベンチと安全キャビネットを設置して衛生的かつ安全に調製しています。

医療の現場では情報が日々更新されており、薬剤部では医薬品に関する様々な情報を収集・分析・評価し院内に発信しています。また、各種学会・勉強会等に積極的に参加するなど自己研鑽に励み医療の質の向上に努めるとともに薬学部学生のための実務実習やインターンシップも実施しています。

今後とも地域の皆様に適切な薬物療法を提供し地域医療に貢献してまいりますのでよろしく申し上げます。

新任医師紹介



こさか まこと
小坂 充 医師

- 経歴
平成31年4月
信州医療センター 入職
- 専門
呼吸器・感染症内科

● 専門を選んだ理由

咳や痰など、ポピュラーな症状だけに奥が深く、診断も治療も難しいのですが、そこにやりがいを感じました。

● 須高地区の印象

山が近く、自然に癒されます。冬はスキーも楽しみの一つです。

● 地域の方へ一言

ちょっとしたことと思っても、心配な症状があれば、まずは相談にきてください。



みつざわ くにひろ
蜜澤 邦洋 医師

- 経歴
平成31年4月
信州医療センター 入職
- 専門
麻酔科

● 専門を選んだ理由

手術に臨まれる患者さんを全身管理や鎮痛面で支援できるため、やりがいがある職務だと考えています。

● 須高地区の印象

歴史のある街並みから大自然へ移り変わる、四季折々がきれいな地域だと思います。

● 地域の方へ一言

以前にお世話になった地域で再度勤務することができてうれしく思います。よろしく申し上げます。

● 小児発達評価外来のご案内 ●



当院でも運動発達評価およびリハビリを始めます

小児科部長 南 勇樹

今まで当院では小児の運動発達のリハビリは行えませんでした。乳幼児健診で遅れなどを指摘され受診された患者さんや、ご家族が気づき心配され受診された患者さんは、小児科で診察アドバイスをし、専門職によるリハビリが必要と判断されると長野市のリハビリを行える医療施設に紹介となり、そこまで通わないといけなかった状況でした。直接長野市などの医療施設に受診されていた患者さんも多数おられました。

この度、当院のリハビリテーション技術科の理学療法士による新版K式発達検査を主体とした「小児発達評価」ができるようになりました。必要に応じて当院での運動発達リハも行えるようになりました。

まだ乳幼児(0~1歳)の小児発達評価および運動発達リハのみで、一番需要が多い幼児から学童にかけてのライフスキルトレーニング(LST)やソーシャルスキルトレーニング(SST)、言語リハなどは行っておりません。発達外来で行動診察、アドバイス、投薬などの診療を行っているのみでした。将来はこれらの評価や訓練も可能になればと考えております。

窓口は小児科外来となります。まずご連絡いただき、発達心理外来を受診していただきます。完全予約制で木曜の午後に初診を行っておりますが、状況により他の曜日の午後にも行うことが可能ですので、まずはご相談ください。そこで医師に必要と判断された患者さんに「小児発達評価」を受けていただくこととなります。

また、小児科の発達心理外来では園児、学童、生徒さんの発達障がい、登校しぶり、不登校、不安症などのご相談、診療も行っております。必要であれば小児科外来にご相談いただければ幸いです。

リハビリテーション技術科 理学療法士

澤柳 浩光・勝山 晴夫



リハビリテーション技術科では主に乳児(0歳~1歳)を対象として、「小児発達評価」を開始いたしました。発達評価というと少し堅苦しい印象があるかもしれませんが、振ると音が鳴るガラガラや積木、ミニカーなど馴染みのあるおもちゃを検査用具として使用するので、子どもにとっては遊びと感じられ、自然な行動が観察しやすい環境で行います。

評価することにより年齢における一般的な行動・反応と実際の行動・反応とを比較して、現状の運動発達を知ることができます。発達評価から発達の特徴だけでなく評価を受けている時の様子、日常生活の様子などを踏まえ今後の家庭でのサポートに活かせるように主治医と理学療法士が連携してアドバイスや支援を行っていきます。必要に応じて定期的なフォローも行うことは可能です。子どもが成長していくには、それぞれの発達段階に合った関わり方や対応の仕方が重要となります。

発達の遅れが気になる場合だけでなく不安・相談があればお気軽に小児科へお問い合わせ下さい。





須高地区における対策型胃内視鏡検診の導入

内視鏡センター長 赤松 泰次

検診には対策型検診(いわゆる集団検診)と個別検診(人間ドックなど)に大別され、個別検診では多くの方が内視鏡(胃カメラ)を用いて胃の検診を行なっています。一方、対策型胃検診はこれまでバリウムを用いたX線検査が行なわれてきました。内視鏡検査とX線検査を比較すると、内視鏡の方がより早期の胃がんを発見することが可能で、精度が高いことが分かっています。しかし内視鏡検診は、X線検診車のようにいろいろな地域を訪問して1日に多くの受診者に対して検査を行うことができないため、実行することが困難とされてきました。2017年に厚生労働省が、対策型胃検診の方法は従来のX線検査だけでなく内視鏡検査でも可能であるという指針を打ち出しました。それ以前より一部の都市で先駆的に対策型胃内視鏡検診が行なわれていましたが、いずれも医療機関が多数存在する大都市に限られ、山間部が多い長野県では実施が難しいと考えられていました。

2017年に須高地区(須坂市、小布施町、高山村)で対策型胃内視鏡検診準備委員会が発足し、右図のように各市町村、須高医師会、長野県健康づくり事業団の3者が協力して実施することを決定して準備を進め、2018年度より開始しました。内容は厚生労働省の指針に基づき、受診者の対象は50歳以上で2年に1回(偶数年齢)とし、市町村より通知のあった受診者は一次検診実施医療機関に申し込んで内視鏡検査を行い、撮影した内視鏡写真はすべて信州医療センターへ集めて内視鏡専門医による二次読影(ダブルチェック)を行ないました。その結果、2018年度は3市町村全体で992人の受診者があり、そのうち胃がんが6人(早期胃がん5人、進行胃がん1人)、食道表在がん1人が発見され、がん発見率は0.71%(胃がんに限ると0.60%)でした。バリウムによるX線検診のがん発見率は0.1%程度ですので約7倍の発見率であり、早期胃がんの5例はいずれも内視鏡治療による局所切除で根治しました。

2019年度は6月から開始して来年2月末まで内視鏡検診を行ないます。内視鏡検診とX線検診のどちらを受けるかは受診者の選択によりますが、精度の高い内視鏡検診を選ぶことをお奨めします。「内視鏡は苦しいから苦手」という方がいると思いますが、静脈麻酔を行なって眠っている状態で検査を受けたり、経鼻内視鏡という細いスコープで鼻から挿入するといった安楽な方法があります。検査を受ける医療機関によって多少方法が異なりますので、実施医療機関へ申し込む際にご確認下さい。当院での内視鏡検査はすべてスコープを口から挿入(経口法)していますが、受診者の希望に応じて静脈麻酔を実施しています。また、ピロリ菌感染が気になる方は内視鏡検査後、保険診療に切り替えてピロリ菌の感染診断を行い、陽性者に対して除菌治療を行なっています。

なお、今年度から長野市でも対策型胃内視鏡検診が開始され、来年度からは中野市においても実施が計画されています。近い将来、対策型胃検診は従来のX線検査に代わって内視鏡検診が中心になると予想されます。

図 対策型胃内視鏡検診の協力体制



風しんの抗体検査・予防接種を受けましょう

風しんとは

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5~7人にうつす強い感染力を有します。

風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が広まります。

症状は不顕性感染(感染症状を示さない)から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹の長期化、関節痛など、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療が必要となることもあり、決して軽視はできない疾患です。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。

特に風しんの抗体保有率が低いと言われる昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性は、公費で抗体検査・予防接種が受けられます。

風しんの抗体検査・予防接種が無料となる方

昭和37年4月2日~昭和54年4月1日生まれの男性

- 実施期間/2019年4月1日~2022年3月31日の3年間 ※対象者には、市町村からクーポン券が送付されます。

風しんの抗体検査・予防接種を希望の方は地域医療福祉連携室(電話026-246-6577)までお問い合わせください。

第2回市民公開講座

「あなたの肺は大丈夫ですか？ 気になる肺の病気あれこれ」を開催しました

須高医師会との共催による市民公開講座を5月25日(土)に須坂市文化会館メセナホールにて開催しました。

今回のテーマは、昨年開催した第1回市民公開講座の参加者から要望の多かった「肺疾患」とし、当院呼吸器・感染症内科部長 山崎善隆医師より「知っておきたい呼吸器の病気、長引く咳、痰、息切れなど気になる症状はありませんか?」、呼吸器外科部長 坂口幸治医師より「検診で異常を指摘されたあなた!あなたが肺がんになったら」の演題で講演が行われました。当日は、近隣市町村から約200名の方々にご参加いただき、「身近でとてもわかりやすかった」「とても勇気づけられた」「今後も講座に参加したい」などのご感想をいただきました。また、講演の後に質問コーナーが設けられ、参加者の皆さんから多くの質問が寄せられました。当日、お答えできなかった質問を含め、医師による回答をホームページに掲載しておりますので、ご参考にしてください。また、今回の新たな試みとして、休憩時間中には、当院リハビリテーション技術科職員による呼吸体操を会場の皆さんと一緒に行いました。

今後も、地域の皆さんがご自身の健康について考える機会となるよう公開講座の開催を継続していきたいと考えています。



山崎医師



坂口医師



呼吸体操

肝臓内科の診療が はじまりました

信州大学医学部医療推進学教室特任教授 田中榮司先生による週1回の診療が始まりました。

肝臓内科系疾患の方は是非ご相談ください。

第18回信州医療センター病院祭

今年も信州医療センター病院祭を10月5日(土)に開催します。(須坂健康まつり同時開催)皆さんのお越しをお待ちしています。



長野県立信州医療センター・外来診療担当予定表

○午前の受付時間は8時30分～11時30分(自動受付機は7時30分～)

○午後の受付時間は各診療科、曜日により異なりますので、外来担当表にてご確認ください。

(令和元年7月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金	
総合診療科		中村 真一郎 宮島 正行/植原 啓之	高 裕信 小泉 正幸	原田 輝和 貝梅 紘子	赤松 泰次 木畑 稔	鈴木 一史 関 年雅	
内科	呼吸器 感染症	午前	小坂 充	山崎 善隆		山崎 善隆	小坂 充(1・3・5週) 久保 惠嗣(2・4週)
		午後	山崎 善隆	小坂 充	山崎 善隆		
	消化器	午前	下平 和久	赤松 泰次	中村 真一郎	下平 和久	宮島 正行
		午後				植原 啓之	
	循環器	関 年雅	丸山 隆久	白井 達也 (長野赤十字病院医師)	関 年雅	丸山 隆久	
	血液	貝梅 紘子	貝梅 紘子	小泉 正幸		小泉 正幸	
	腎臓		市川 透(1・3週) 小川 洋平(2・4週) (長野赤十字病院医師)				
	糖尿病/生活習慣病	小林 永幸		長澤 武志(終日)	小林 永幸 宮本 晃男(終日)	小林 永幸	
	肝臓				田中 榮司		
	漢方(終日)			布施 修 (1・3週)			
	ペースメーカー外来				関 年雅 (13時30分～)		
	ピロリ菌専門外来	赤松 泰次 (13時30分～)					
	嚥下機能評価外来	山崎 善隆(14時～)	山崎 善隆(午前)	山崎 善隆(14時～)	山崎 善隆(午前)		
	貧血外来		小泉 正幸(14時～)				
脳神経内科(午後)					松野 淳洋(14時～)		
海外渡航者外来(午後)		山崎 善隆(3週) 氏家 無限(1週)					
外科 (午前)	1 診	古澤 徳彦	久保 直樹	交代制	久保 直樹	古澤 徳彦	
	2 診	寺田 克	増尾 仁志		寺田 克	増尾 仁志	
血管外科(午前)		上沢 修			上沢 修		
呼吸器外科(午前)			坂口 幸治			坂口 幸治	
茶煙外来(午前)				上沢 修			
形成外科(午後)		高清水 一慶 (14時～16時)(予約制)		白井 エリオ (14時～16時)(予約制)			
整形外科 (午前)	初診	小松 幸子 笹尾 真司	渡邊 憲弥 小松 幸子	三村 哲彦 (信大医師)	三井 勝博(下肢) 笹尾 真司	上原 将志(脊椎)	
	予約	三井 勝博	小松 幸子	渡邊 憲弥	三井 勝博 笹尾 真司	渡邊 憲弥(2・4週) 小松 幸子(1・3・5週) 笹尾 真司(2・4週)	
脳神経外科(午前)		銭坂 英生(1・3週)			伊東 清志		
皮膚科(午前)				高沢 裕子		小口 真司	
小児科	初診 (午前)	鶴田 悟郎	南 勇樹	南 勇樹(1・3・5週) 鶴田 悟郎(2・4週) 信大医師(交代制)	鶴田 悟郎	南 勇樹	
	予約 (午後)	予防接種(14時～) 慢性外来(16時～)	乳児健診(14時～) 慢性外来(15時～)	慢性外来 (14時～)	小児循環器外来(14時～) 発達・心理外来(初診) 慢性外来(15時～)	予防接種(14時～) 慢性外来(16時～)	
産科	午前	南郷 周児	堀田 大輔	南郷 周児	豊田 友子/交代制	堀田 大輔	
	午後	豊田 友子/交代制	産後健診				
婦人科	午前	飯高 雅夫 堀田 大輔	飯高 雅夫 南郷 周児	飯高 雅夫 堀田 大輔	春日 美智子	飯高 雅夫 交代制	
	午後	春日 美智子/交代制	春日 美智子/豊田 友子 (交代制)				
泌尿器科	午前	信大医師(交代制)	上野 陽子	宮下 大輔	井川 靖彦	井川 靖彦	
	午後		上野 陽子 (13時30分～)	井川 靖彦	井川 靖彦	井川 靖彦	
眼科	午前	山田 哲也	山田 哲也	山田 哲也	手術	山田 哲也	
	午後	山田 哲也 (予約のみ)(13時30分～)	手術	山田 哲也 (検査・予約)(13時30分～)		山田 哲也 (予約)(13時30分～)	
耳鼻咽喉科	午前	清水 勝利	清水 勝利 (新患紹介来院11時まで)	清水 勝利	清水 勝利 (新患紹介来院11時まで)		
	午後			清水 勝利 (14時30分～16時30分)			
麻酔科(ペインクリニック)(午前)		清水 俊行			清水 俊行	清水 俊行	
漢方東洋医学外来(予約制)(午前)			水嶋 文雄				
精神科(午後)					長峯 清英(2・4週)(14時～)		

(診療情報提供書の送付先)長野県立信州医療センター・地域医療福祉連携室 FAX 026-246-5530・TEL 026-246-6577(直)
外来診療担当表は、内容が変更になる可能性がありますので、当院ホームページ等でご確認ください。